

Flow Mixing Suite

コンテンツ

はじめに

サウンド

Flow とは

Flow のユーザーインターフェース

インプットパネル

アウトプットパネル

Flow コントロールパネル

Flow セレクター

Flow コントロール

周波数アナライザー

プラグインパネル

ユーザーFlow の設計(ベータ版)

デザイナービューの有効化

Flow コントロールの作成

コントロールの設計

ビジュアライゼーションの制限

Flow の保存

クレジット

## はじめに

現代の音楽プロデューサー達は、Softube に2つのことを求めてきました。それは、プロオーディオプラグインを使用しながらワーク Flow を高速化すること、そして、創造性を刺激し、制作をさらに発展させるためのオプションを提供することです。Flow® Mixing Suite は、ボーカルやドラムバスなど、制作の主要部分における要求の厳しい作業を迅速に処理できるように設計されており、同時に、クリエイティブなインスピレーションを与え、新しいことに挑戦できる環境を提供します。

## サウンド

Flow Mixing Suite を使えば、プロが使用するツール(Tube-Tech®と Chandler Limited®のツールに加え、最新のスタジオ定番ツール)を、あらゆるニーズに対応するカスタマイズ可能なミキシングチェーン(つまり Flow、Flow)を備えた堅牢なミキシング環境で利用できます。

## Flow とは

心理学において、「Flow」とは、没入した精神状態を指します。この状態では、時間がゆっくりと流れ、深く集中し、心身が仕事と一体化します。

Flow® Mixing Suite では、音楽プロデューサーが制作マインドセットを維持しながら、この Flow 状態を保つことを目指しています。より速く作業を進め、時間を節約し、最高の結果を得ながら、プロセスそのものを楽しむことができます。

オーディオ制作で使用するツールは、オペレーターが自身の判断を信頼し、学習意欲を高め、練習の機会を与え、時にはコンフォートゾーンから抜け出して成長できるよう設計されるべきだと私たちは考えています。

Flow Mixing Suite では、ツールの動作を常に可視化し、ブラックボックス処理や秘密の仕組みは一切ありません。作業を進める中で、基本的なミキシング作業から、創造的で刺激的なサウンド制作まで、プロフェッショナルなシグナルチェーンがどのように構築されているかを視覚的に確認できます。

サウンドが現代的で、ワーク Flow が今日の音楽プロデューサーのニーズを満たすようにするため、私たちは音楽プロデューサーのコミュニティである「Flow Producer Collective」と連携し、彼らにとって何が重要なのかを理解しようと努めました。彼らの専門知識と洞察は、私たちが「Flow」と呼ぶものに組み込まれています。Flow とは、コンテキスト情報とともにチェーンの各部分をコントロールするために高度なマクロを使用する、カスタム構築されたシグナルチェーンです。さらに、プロの音楽プロデューサーが作成した Flow Packs もダウンロード可能です。

## Flow 設計者

Flow の設計方法と設計者については、Flow Mixing Suite の Web ページをご覧ください。

## Flow のユーザーインターフェース



左から右へ: 入力ピークメーターを備えた入力パネル、Flow コントロールパネル、プラグイン信号の変更と視覚化を表示するメインウィンドウ、そして出力パネルがあります。

### インプットパネル

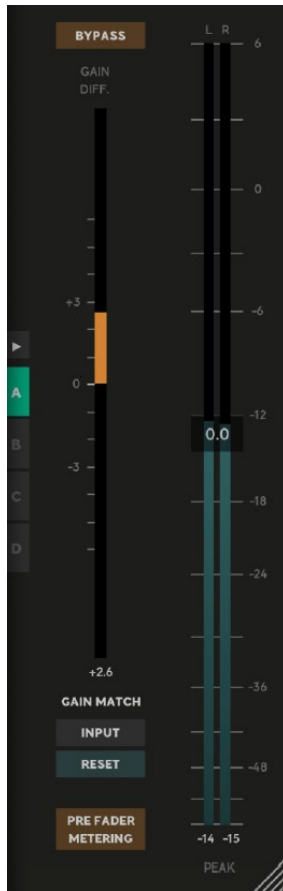
インプットパネルとアウトプットパネルは、すべての Softube プラグインに含まれています。これらの追加機能の詳細については、拡張機能マニュアルをご覧ください。

### インプットボリューム

Flow へのインプットレベルを設定します。Flow は、ピーク値が約-10 dB の入力レベルで動作するように設計されています。

**インプットレベルは、ピーク値が約-10 dB になるようにしてください。**

## アウトプットパネル



アウトプットパネルには、A/B/C/D の状態、ゲインマッチングのオプション、およびさまざまなスタイルのメーターのコントロールがあります。デフォルトでは、ピーク(dBFS)メーターが使用されます。

### A/B/C/D

異なる設定(状態)を切り替えます。

### ゲインディファレンスメーター

オレンジ色のゲインディファレンスメーターは、入力と出力の LUFS-S の差を測定し、メーターで表示します。

これにより、Flow のゲイン補正を手動または自動で簡単に行うことができます。

### ゲインマッチインプット

インプットの LUFS-S を出力の LUFS-S に一致させることで、音の違いを簡単に比較できます。

Flow のバイパスボタンを使用すると、ノイズのない比較が可能です。

### ゲインマッチリセット

出力レベルを 0.0dB にリセットします。

### プリフェーダーメーター

アウトプットゲインをかける前の出力レベルをモニターできます。

ゲインマッチインプットでオーディオを A/B 比較する場合に便利ですが、最終的な出力レベルも確認したい場合にも役立ちます。

比較後、ゲインマッチリセットを押して出力レベルを 0dB にリセットします。

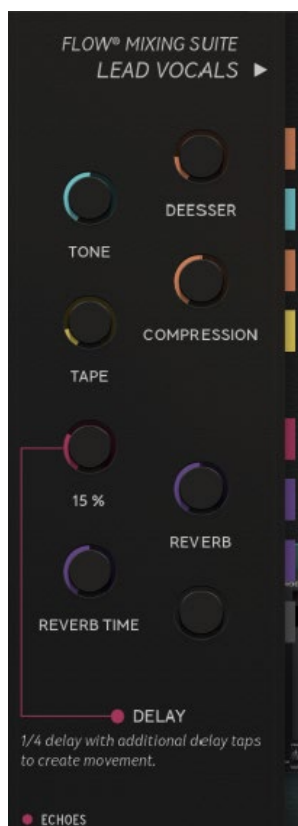
### アウトプットボリューム

アウトプットレベルを設定します。

*Flow 適用前後の音声を比較したい場合、最も簡単な方法は、[ゲインマッチインプット]をクリックしてインプットとアウトプットのレベルを合わせ、Flow の[Bypass]機能を使用してグリッチのないスムーズなバイパスを行うことです。*

### Flow コントロールパネル

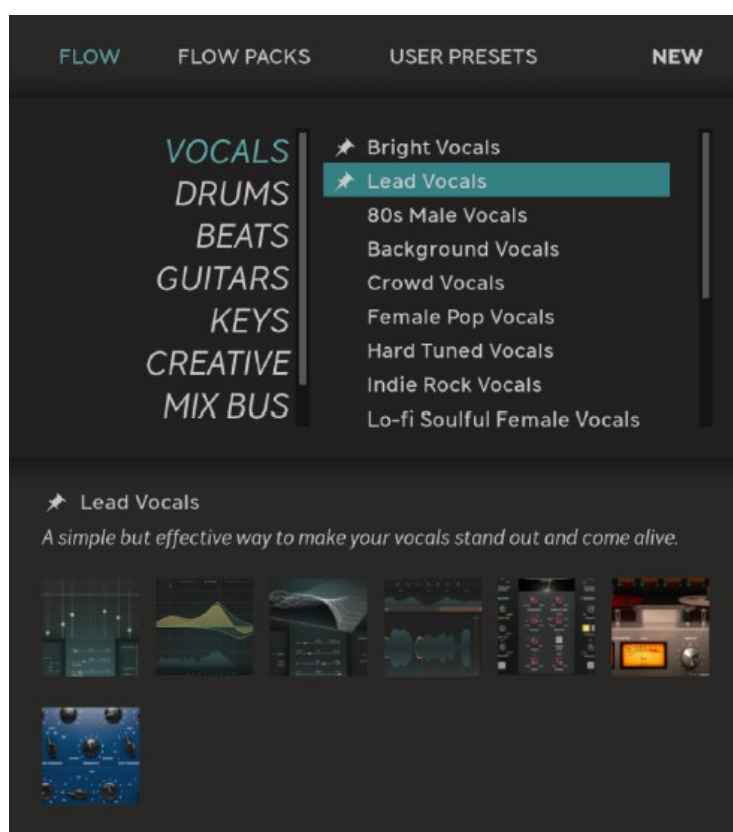
左側のコントロールパネルには、各 Flow 固有の Flow コントロールと、別の Flow を選択できる Flow セレクターがあります。



カスタマイズ可能な 8 つの Flow コントロールを備えた Flow コントロールパネル。

## Flow セレクター

Flow の名前をクリックすると Flow セレクターが開きます。ここでは、さまざまな用途に合わせて複数の Flow を選択できます。Flow は編集できますが、保存することはできません。編集内容を保存するには、プリセットを作成する必要があります。詳細は下記をご覧ください。ユーザープリセットを編集している場合は、名前の下に「User Signal Chain」というテキストが表示されます。



### Flow セレクター

上部: 内蔵 Flow、プロデューサー Flow パック、保存済みのユーザープリセットから選択するか、新しいシグナルチェーンを作成します。

右側: アプリケーション(ボーカル、ドラムなど)と Flow を選択します。

下部: 現在の Flow の説明が表示されます。

## Flow

これらは、Flow Producer Collective から収集した最新の音楽制作に関する情報を基に、社内で作成された内蔵 Flow です。

## Flow パック

Flow パックは、インストール可能なオプションの Flow です。内蔵 Flow よりもやや特化しており、例えば特定のジャンルに特化していたり、プロデューサーの秘訣を盛り込んでいたりします。

Flow パックは今後も継続的にダウンロード可能になります。

## ユーザープリセット

ここでは、独自のシグナルチェーンを見つけることができます。Flow はユーザープリセットよりも多くの機能を備えていますが、編集することはできません。

そのため、独自のシグナルチェーンを保存したい場合は、ユーザープリセットが重要になります。

## 新機能

このオプションを選択すると、独自のシグナルチェーンをゼロから構築できます。

「+」記号をクリックしてプラグインを追加し、任意のプラグインパラメーターを右クリックして、そのコントロールのマクロを作成します。

**ヒント:**既存の Flow から独自のシグナルチェーンを構築することもできます。現在のプリセットが表示されている *Softube* メニューバーをクリックし、「Add Preset」を選択します。これにより、Flow のすべての設定を含む新しいユーザープリセットが作成されます。

## Flow コントロール

Flow コントロールは、複数のプラグインの複数のパラメーターを一度に調整できる非常に強力なコントロールです。

コントロールにカーソルを合わせると、その用途の説明と、どのプラグインとパラメーターをコントロールできるかの概要が表示されます。

**Flow 内の Flow コントロールにカーソルを合わせると、Flow ガイドのヘルプテキストが表示され、コントロール対象のプラグインが色付きの線で示されます。**

コントロールの調整以外にも、様々な機能があります。

- ・コントロールをクリックすると、コントロール対象のプラグインを順番に切り替えることができます。
- ・コントロールにカーソルを合わせると、Flow ガイドが開き、その機能の説明を読むことができます。
- ・コントロールにカーソルを合わせると、コントロール対象のプラグインを確認できます。

コントロールは、その機能の種類を簡単に理解できるように色分けされています。

青は、EQ などの音色調整です。

- ・オレンジは、コンプレッサーなどのダイナミクス調整です。
- ・黄色は、ディストーションまたはサチュレーションです。
- ・濃い緑は、ステレオイメージとワイドニング処理です。
- ・薄緑色はピッチ補正です。
- ・マゼンタ色はディレイまたはエコーです。
- ・紫色はリバーブまたはアンビエンスです。
- ・灰色は、例えばプラグインのパラメーターを直接調整した場合など、コントロールが個々のプラグインの設定に対応しなくなったことを示します。

### Flow コントロール設定

コントロールパネルの色付きタブをクリックすると、Flow コントロール設定パネルが開きます。

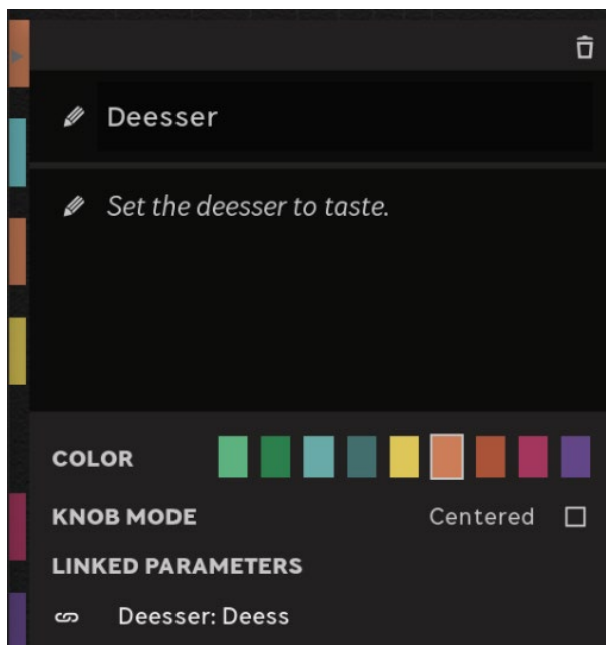
このパネルでは、コントロールのカスタマイズや削除が可能です。タブをドラッグすると、パネル内の Flow コントロールの順序を変更できます。

***Flow コントロールの編集内容は Flow には保存されません。Flow コントロールを編集する場合は、変更内容をユーザープリセットとして保存してください。***

### パラメーターのリンク

プラグインインターフェースから、含まれているパラメーターを直接調整することで、Flow コントロールを上書きできます。この場合、Flow コントロールは灰色に変わります。Flow コントロールを再度調整すると、この設定が上書きされます。

Flow コントロールからパラメーターを除外したい場合は、Flow コントロール設定パネルのリンクされたパラメーター一覧からパラメーター名をクリックしてください。



チェーンアイコンをクリックすると、Flow コントロールへのパラメーターのリンク/リンク解除ができます。

## 周波数アナライザー

信号経路の背後には常に周波数アナライザーが備えられています。周波数アナライザーは、出力(前景の青色)と入力(背景の青色)を表示します。

周波数アナライザーは、右上隅の歯車アイコンから以下のオプションを選択することでカスタマイズできます。

### In/Out

入力/出力カーブの表示/非表示を切り替えます。

### Mode

高速、低速(デフォルト)、平均ホールド、ピークホールドなど。アナライザーの更新速度を設定します。

### Channel Conf

入力/出力(デフォルト)、左/右、ミッド/サイド、またはサイドチェーンなど。

### Tilt

周波数スペクトルを 0 dB(デフォルト)、+3 dB(ピンクノイズ傾斜)、または+6 dB(ブラウンノイズ傾斜)に傾斜させます。+3 dB に設定すると、周波数スペクトルはピンクノイズ信号に対してフラットに

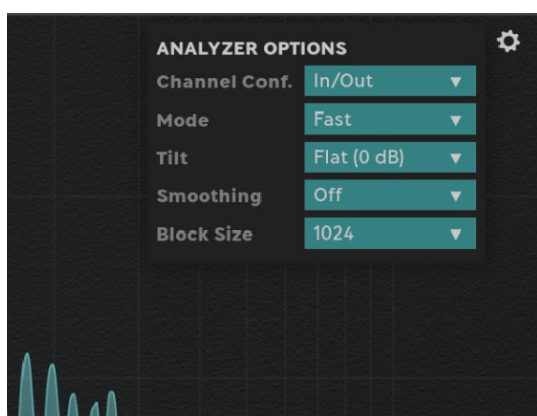
なり、人間の耳が周波数をどのように知覚するかにより近いものになります。

### Smoothing

スペクトルの周波数スムージングを設定します。完全にオフから、1 半音(1/12 オクターブ、デフォルト)から最大 2 オクターブまで設定可能です。

### Block Size

スペクトルの周波数分解能と更新速度を設定します。



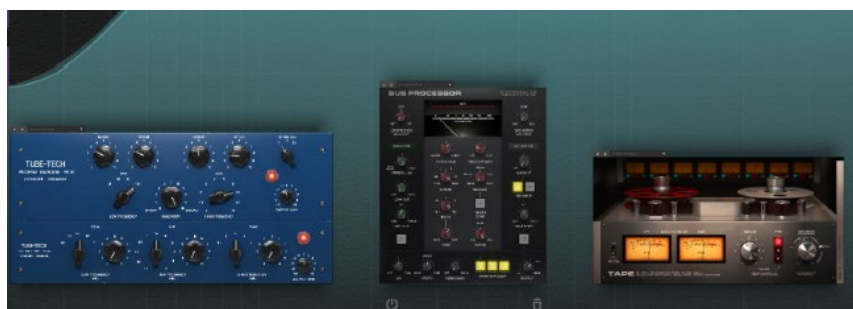
周波数アナライザーのオプション

### プラグインパネル

ユーザーインターフェースの下部には、付属のプラグインが表示されます。プラグインをクリックすると開きます。下のメニューバーをクリックしてドラッグすると、すべてのプラグインが表示されます。プラグインにカーソルを合わせると、そのプラグインの情報が表示されます。

無効化すると、プラグインがオフになり、CPU 負荷が軽減されます。これは、プラグインを「スムーズに」バイパスするためのものではありません。

削除すると、信号チェーンからプラグインが削除されます。



信号チェーン内の各プラグインには、サムネイルの下に「無効化」ボタン(オン/オフアイコン)と「削除」ボタン(ゴミ箱アイコン)があります。

**サイドチェーン:** Flow Mixing Suite に外部サイドチェーンを接続できます。  
サイドチェーン入力を持つ各プラグインで外部サイドチェーンを有効にすることで使用できます。  
外部サイドチェーンの有効化方法については、各プラグインのマニュアルを参照してください。

**プリセットブラウザ:** 開いているプラグインの左上にあるプリセットブラウザで、各プラグインのプリセットをロード/保存できます。プリセットブラウザの詳細については、プリセットコレクションのマニュアルを参照してください。

### シグナルチェーンのカスタマイズ

プラグインのシグナルチェーンは、お好みに合わせてカスタマイズできます。  
変更の保存: プラグインと Flow コントロールの追加、削除、移動は可能ですが、Flow 実行中は変更内容は保存されません。変更内容を保存するには、ユーザーシグナルチェーン(ユーザープリセットとも呼ばれます)として保存する必要があります。

**プラグインの追加:** プラグインパネルでプラグインの横に表示されるプラス記号をクリックします。

**プラグインの移動:** プラグインをクリックしてドラッグします。

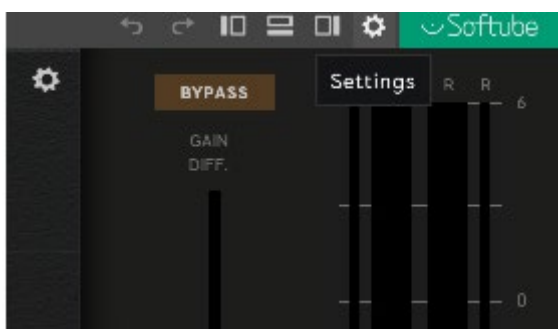
**プラグインの削除:** シグナルチェーン内のプラグインの下にある「Remove」をクリックします。

## ユーザーFlow の設計(ベータ版)

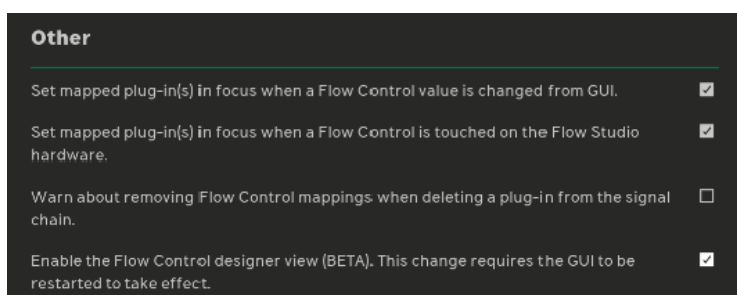
### デザイナービューの有効化

**注:** この機能はベータ版であり、いくつかの問題がまだ存在します。

設定ウィンドウを開き、「Flow コントロールデザイナービューを有効にする」設定を探します。  
この設定を有効にしてから、プラグインウィンドウを閉じて再度開き、設定を再読み込みします。



設定ウィンドウを開きます。



「Enable the Flow Control designer View」設定を有効にします。

## Flow コントロールの作成

プラグインのパラメーターを右クリックすると、最大 8 つの Flow コントロールを作成できます。

1 つの Flow コントロールには任意の数のプラグインパラメーターをマッピングできますが、各パラメーターは 1 つの Flow コントロールでのみコントロールできます。

これは、プラグインの右クリックメニューにも表示されます。



パラメーターを新しい Flow コントロールにマッピングします。



パラメーターを既存の Flow コントロールにマッピングします。

## コントロールの設計

Flow コントロールの設計は、外観と操作感の設計、そしてサウンドの設計の 2 つの部分から構成されます。

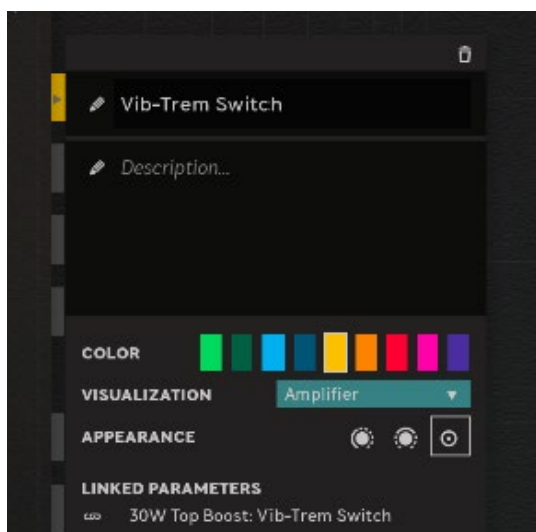
### 外観と操作感

マクロタブの矢印をクリックして、デザイナーメニューを開きます。

リスト項目をクリックしてドラッグすることで、コントロールを移動することもできます。



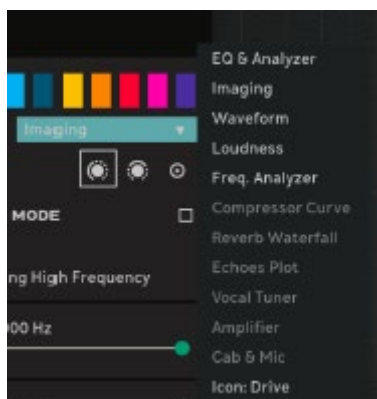
矢印をクリックしてデザインメニューを開き、リストアイコンをドラッグして Flow コントロールを移動します。



外観と操作感をデザインするための設定。

- ・名前の編集: 名前の左側にあるペンアイコンをクリックします。Enter キーを押して保存します。
- ・説明の編集: 説明の左側にあるペンアイコンをクリックします。Enter キーを押して保存します。
- ・色の編集: 色付きの四角形をクリックして色を選択します。各色は機能を表します(例: 紫=リバーブ)。四角形にカーソルを合わせると、色が表す機能が表示されます。
- ・ビジュアライゼーションの編集: ビジュアライゼーションの設定は、現在 Flow Studio ハードウェアでのみ有効です。Flow Control に関連付けるビジュアライゼーションを選択します。一部のビジュアライゼーションでは、特定のプロセッサまたはプロセッサタイプが有効になっている必要があります。詳細は下記の「ビジュアライゼーションの制限」を参照してください。
- ・ノブの外観の編集: 外観では、Flow Control を通常のノブ、バイポーラノブ、または双方向スイッチのいずれかに設定します。ノブ、バイポーラノブ、または双方向スイッチが選択できます。
- ・オムニモードから除外: この設定は Flow Studio ハードウェアでのみ有効です。オムニモードノブを回しても Flow コントロールが変更されないようにします。
- ・リンクされたパラメーター: 現在選択されている Flow コントロールにマッピングされているパラメーターのリストです。チェーンアイコンを押すと、マッピングは維持されたままリンクが解除されます。

## ビジュアライゼーションの制限



要件のあるビジュアライゼーションはグレー表示されます。

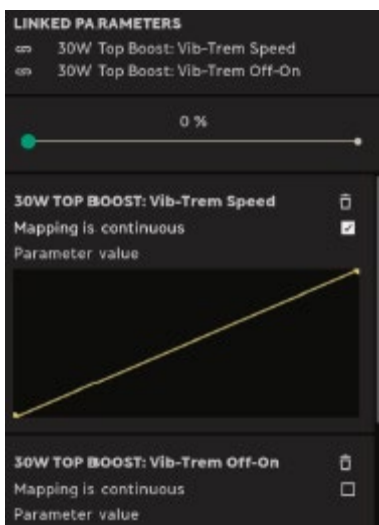
- ・コンプレッサーカーブ: ダイナミクスカテゴリのモジュールが必要です。
- ・リバーブウォーターフォール: リバーブモジュールが必要です。
- ・エコープロット: デレイモジュールが必要です。
- ・ボーカルチューナー: ボーカルチューナーモジュール(ピッチ補正カテゴリ)が必要です。
- ・アンプ: アンプカテゴリのモジュールが必要です。
- ・キャビネット&マイク: キャビネットモジュール(キャビネットカテゴリ)が必要です。

## サウンド

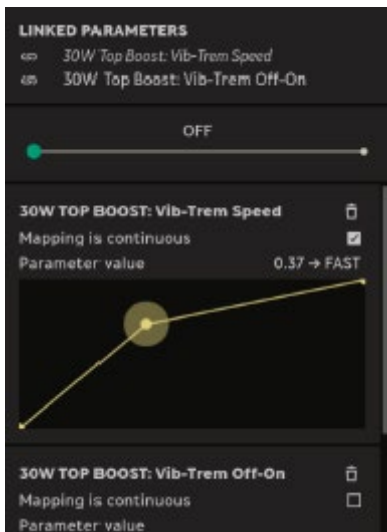
サウンドは、マッピングされた複数のパラメーターの機能に基づいています。最も基本的なマッピングは、0 から 1 への 1 対 1 の線形マッピングで、ほとんどのパラメーターマッピングの出発点となります。例外は双方向スイッチです。Y 軸はプラグインパラメーターの値、X 軸は Flow コントロールパラメーターの値を表します。

パラメーターマッピングは、ポイントを追加してカーブを調整することでカスタマイズできます。現在、連続線形補間(ポイント間の値が連続する場合)と量子化(値が即座に変化する場合)の 2 つのモードがサポートされています。モードは、「マッピングは連続」チェックボックスをクリックすることで変更できます。

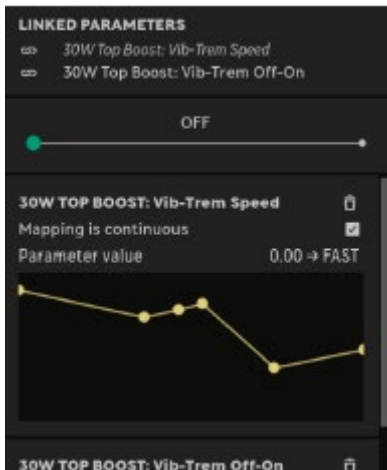
- ・ポイントの追加: 黒いマッピング領域をダブルクリックします。
- ・ポイントの削除: Shift キーを押しながらポイントをクリックします。開始点と終了点は削除できません。



新しいパラメーター(バイブレーション/トレモロ速度)マッピングの初期設定です。



バイブレーション/トレモロ速度カーブを調整するために、新しいポイントを1つ追加しました。



より複雑なマッピングで複数のポイントを設定しました。

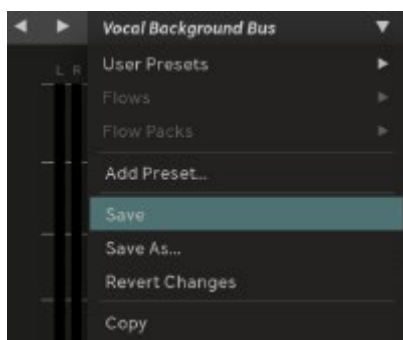
## Flow の保存

プリセットパネルに移動して「保存」をクリックすると、カスタム Flow を保存できます。

**注:** 現在、Flow デザイナーメニューでの変更が、Flow の他の部分が編集されるまで変更として認識されないという問題が発生しています。

変更が認識されると、プリセットメニューの名前が斜体で表示されます(下の画像を参照)。

変更を加えたにもかかわらず名前が斜体で表示されない場合は、Flow に小さな変更を加えてください(例: プラグインの GUI を最大化/最小化する)。



Flow の保存

## クレジット

Softube の全従業員が、この製品の開発と市場投入に貢献しました！